

Title	日本企業のグローバル経営と競争優位の確立
Sub Title	
Author	タンティラッタナスストーン, プンチュー 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第856号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0856

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 タンティラッタナスントーン・ブンチュー 主査 和田 充夫
副査 青井 倫一
矢作 恒雄

所属 和田 充夫 研究室

日本企業のグローバル経営と競争優位の確立

昨今、日本企業のいくつかは海外事業活動を通じて、世界経済や貿易に大きな影響を与えるようになってきた。そして、その企業規模は、日本経済の地位の相対的向上に伴って急速に拡大している。同時に、従来貿易が中心であった日本企業の海外活動も大きく変容し、ここへきて新たな段階に入りつつあると言えよう。

つまり、日本企業の経営を取り巻く世界環境が大きく変化するなかで、その対応として、グローバルな展開を行う日本企業も数多く出てきたのである。しかし、グローバル競争の現実のなかでは、国内で競争優位を確立した日本の企業といえども単なる輸出作戦や外国に自律性を持つ子会社を作ることで競争に対応することはできないのである。

日本の企業がグローバルな展開を確かなものにするためには、グローバルな競争優位を確立し、グローバルな経営形態を作り上げ、グローバルに経営資源を蓄積することが必要であり、調整力と統合力を持ったグローバル・ネットワークの構築が必要なのである。

本研究では日本企業を代表するブリヂストン(株)及びソニー(株)のタイヤと8ミリテープの両事業のグローバル経営展開のプロセスを分析し、両社が国際競争優位を確立するためのグローバル戦略への提言を行うものである。本研究は同時に、これらの事例研究を通じて、共通したビジョンとアイデンティティの確立や情報ネットワーク型総合システムの確立などのようなグローバル企業として世界に貢献し永続的な成功を持続するための経営課題を明らかにしている。